

私は、今年の七月に行われた、参議院選挙に投票してきました。私は、今年の七月四日に十八歳になりました。選挙は七月の中旬に行われたので、私は今回の選挙で初めて選挙権を手にする事になりました。

私は今回の選挙で投票に行くことを国からの通達が届くまでは、初めて投票するという事に対してあまり深くは考えていませんでした。

私の住む地域では、私の母校の小学校が投票場所に設定されていました。それは私の小さいころからそうでした。私は小学校低学年時に何度か両親の投票について行った記憶があります。私は、そのとき、いつもとは違う学校の雰囲気にあてられて、静かにしていたことを覚えています。その当時はまだ、私は選挙というものについてよく理解できていなかったのではないかと思います。そのため、小学校の高学年にもなると興味をなくしてしまい、両親の投票について行くことはありませんでした。

それぐらいの時期や中学生になると選挙権は二十歳未満の人には与えられないということを知り、幼少の頃の記憶にある両親が行っていたのは選挙における投票であると気づきました。選挙についての理解を深めたことで選挙権が二十歳未満には与えられない、つまりは、大人になるまで自分には関係のないことだと考えるようになりました。

テレビのニュースで十八歳から選挙権が与えられるようになったと知ってからも、私は選挙権についてあまり考えることはありませんでした。この気持ちのまま、私は投票日を迎える事になりました。久しぶりに訪れた小学校はどこか懐かしく感じました。会場に入ると、幼少の頃に感じた、静かな雰囲気を当時ほどではないにしろ、感じました。ここで初めて、今まで感じなかった緊張を感じました。事前に高校で簡単な投票の流れを確認していたので、私の初めての選挙はつつがなく進み、会場を出るとなんともあっけなく感じました。

家に帰る途中で、今までに学んだ選挙についての知識と今回の投票について私はあらためて思い直しました。自分に与えられた選挙権とは自分が大人として社会に認められ、社会を構成するようになる立場であると気づきました。次回の選挙では、今回の選挙で私になかった選挙権を持つ者として臨みたいです。